

(お知らせ)

定期検査中の福島第一原子力発電所6号機における
燃料交換機の不具合について (続報)

平成19年11月20日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

当所6号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)につきましては、平成19年10月1日より第20回定期検査を実施しておりますが、平成19年11月18日、原子炉内への燃料装荷作業において、燃料を吊っていない状態で燃料交換機の主マスト*¹を巻き上げていたところ、主マストの不具合を示す信号が発生し、燃料交換機が自動停止しました。

燃料装荷作業を中断し調査を行ったところ、主マストの下端にある燃料つかみ具に駆動用空気を送るホースの巻き取り装置内にあるバネが伸縮しなくなっており、ホースが正常に巻き取られていないことがわかりました。

このため、当該巻き取り装置の交換を行い、燃料交換機の機能が健全であることを確認し、11月19日、燃料装荷作業を再開しました。

主マストの不具合を示す信号が発生した原因は、巻き取り装置内のバネが伸縮しなくなったことによりホースが正常に巻き取られず、主マストの位置を検出するスイッチに接触したため、当該スイッチが誤動作したものと推定しました。

本事象による外部への放射性物質による影響はありません。

[\(平成19年11月19日お知らせ済み\)](#)

その後、燃料装荷作業を継続しておりましたが、本日午前10時45分頃、燃料を吊っていない状態で燃料交換機の主マストを巻き上げていたところ、主マストの不具合を示す信号が再度発生し、燃料交換機が自動停止しました。

調査した結果、主マストの下端にある燃料つかみ具に駆動用空気を送るホースの巻き取り装置内にあるバネ(11月18日に伸縮しなくなったバネと同じ部品)が切れており、ホースの巻き取りができないことがわかりました。

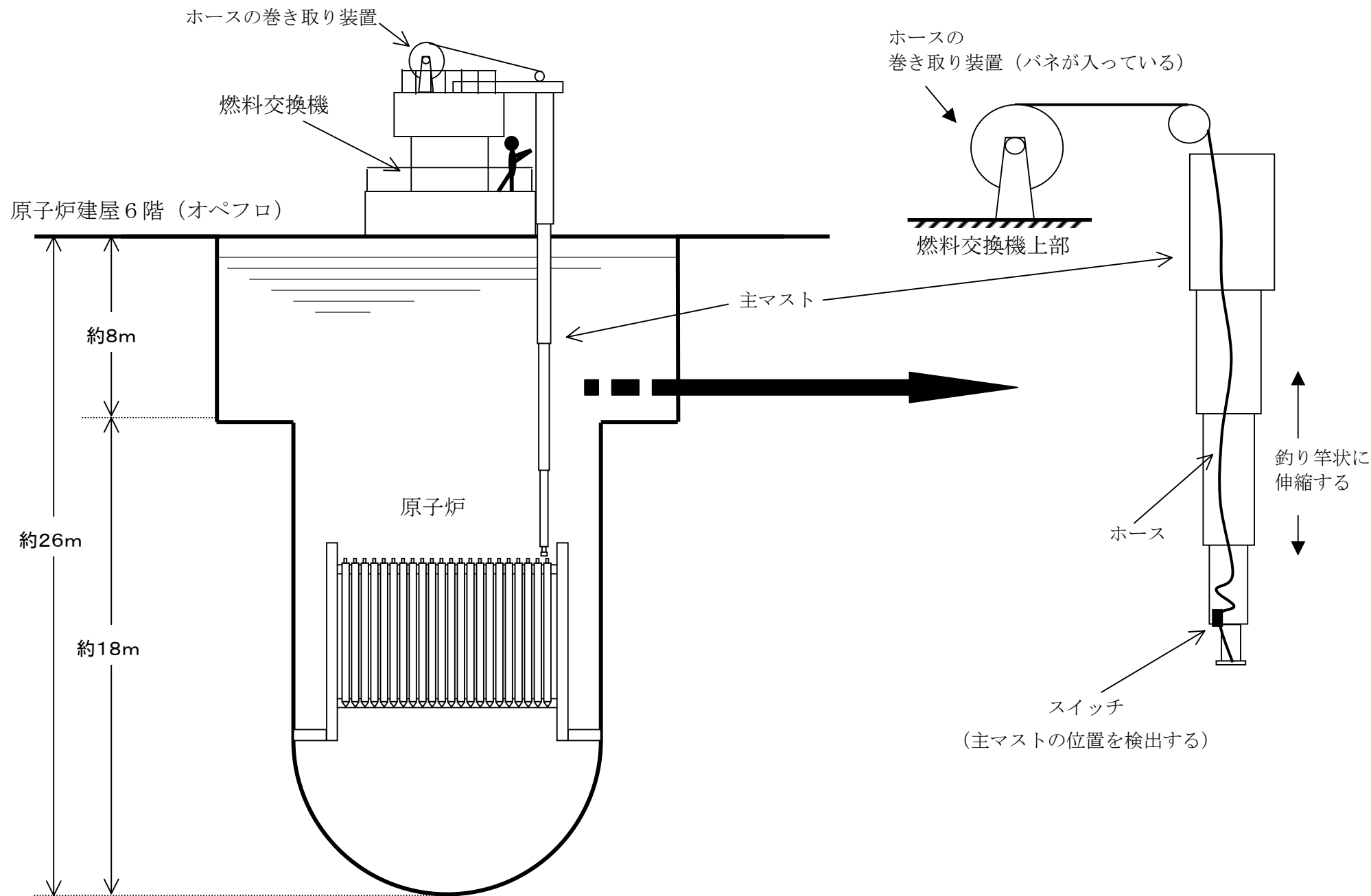
このことから、今回の事象は、11月18日に発生した事象と同様に、正常に巻き取られなかったホースが、主マストの位置を検出するスイッチに接触したため、当該スイッチが誤動作し発生したものと推定しました。

当該燃料交換機については、ホースの巻き取り装置を除く機能について健全であることを確認していることから、今後、準備が整い次第、ホースを手で巻き取る方法で残り13体の燃料集合体*²の移動を行うこととしました。

なお、引き続き、原因について調査します。

以上

- * 1 燃料交換機の主マスト
燃料移動の際に使用する燃料つかみ具を昇降させるための部品。
- * 2 残り 13 体の燃料集合体
当該号機の燃料集合体の炉内装荷本数は 764 体。



燃料装荷作業の概要と主マストの不具合信号発生時の状況概略図